

1. 初めに

東京都八王子市南東部の南大沢近郊で、11年にわたりアオシギの越冬を観察したので、これを記録として残すこととした。

2. アオシギとは

チドリ目シギ科、体長30cmほどで、雌雄同色である。

シベリアなどで繁殖し、日本へは越冬のために渡って来て、溪流、沢、山間部の河川等に単独でいることが多い。水中や泥の中に長いくちばしを入れて虫などを採餌する。

(参考文献：山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥 叶内拓哉ほか)

3. 観察の経緯

南大沢周辺には多摩川の支流大栗川や大田川の源流、南に尾根幹線を越えた町田市側では鶴見川の源流があり、湿地帯も多い。更に尾根緑道を越えたところは、現在では多摩境通りとなってしまったが、ここにも境川に流れ込む地域には湿地が多少残されている。

多摩ニュータウンとして開発されたところでは、以前は現在よりもはるかに湿地が多かったと思われる。

この地域でアオシギがいるのをK氏が発見したのが、2000年1月10日である。それから3年後にK氏と知り合い、アオシギが毎年越冬していると教えてもらった。

当時、東京近郊でアオシギを見るには、真冬に奥日光に行かなくては見られないと思っていたので、大変驚き自分で確認するまでは信じられなかった。

最近では、神奈川県のパークで見られるようになり、大勢の人が観察できるようになった。

私は、2003年3月2日に初めて観察でき、写真も撮ることができたが、枯れ草に紛れて保護色の為、大変見にくかった。(写真1)

その後2009年度(2009年秋から2010年春)まで毎年確認出来、2004年度を除き写真も毎年撮影できた。2010年度は、一度だけ飛ぶのを見たが、確実にアオシギであるか判明しなかった。そして、2011年度は一度も見ることにはなかった。

当初、数年の越冬だろうと思っていたが、結果的に11年間確認できたことになる。

もっとも、最初の発見以前から来ていたのかは不明であるので、実際はさらに長い越冬記録かもしれない。

4. 越冬場所の概要

アオシギの越冬が確認された環境は、灌漑用水池(ため池)とその水源にあたる湿地帯である。狭い範囲だが、周囲を侵入防止柵で囲われているために人為的な干渉がほとんどなく、アズマネザサやヨシの深い藪が死角となっていること、餌が豊富であることなども重なってアオシギの越冬場所として好条件となっていたよう

だ。

アオシギが最初に発見された地点はため池の水際部分である。池を囲うように植えられたソメイヨシノの落葉が堆積し、浅瀬となっている環境である。当地に到着直後は、数日間ここにいることが多いようであった。堆積物が多い水際は餌となる水生の小動物が豊富と思われ、盛んに採餌行動を繰り返していた。その後、我々の目を気にしてか、それとも水位の微妙な変化や外敵による影響なのか、うっそうとした湿地帯に滞在することが多くなり、観察は大変困難な状況となる。

本個体が主に滞在していた湿地帯の植生は、高茎多年性草本のヨシ・クサヨシが優占し、下草はミゾソバ・クサソテツ・ヒメシダ・セリ・ドクダミ等が一面に繁茂している環境であり、かろうじてせせらぎの水面が確認できるほどのうっそうとした景観である。

周囲は3面が斜面でクヌギ・コナラ主体の二次林とスギ植林に囲われており、それらの木々が湿地上部にまで達しているため薄暗く、林床に生育するアズマネザサの侵入も見られる。なお、約50年前の当湿地にはヒルムシロ・ヒメシロネ・ヒメシオンといった稀産種も生育していたといい、現在これらの植物は確認できないが、当時の面影を残す当地域では有数の豊かな湿生植物群落が広がっている。

(参考文献：多摩丘陵の池に産する水湿生植物/昭和42年/八王子高等学校/吉山寛ほか)

5. 観察記録

1999年度(1年目)

- 2000.1.10 11時 K氏 初認。
午後 K氏 ビデオ撮影。
2000.1.11 K氏 再度確認。

2000,2001年度 (2年、3年目)

K氏およびKa氏 毎年飛来確認

2002年度(4年目)

- K氏と初めて会い、アオシギの越冬について教えてもらう。
2003.2.8 Ka氏観察。
2003.1~2 自身では16回行くが観察できず。
2003.3.2 12時 自身で初観察。
15時 デジタルカメラで撮影できた。
2003.3.8~29 5回行くが観察できず。

2003年度(5年目)

- 2003.10~2004.1 9回行くが観察できず。
2004.2.15 今年度初観察。
2004.2.21 今年度初撮影できた。
2004.2.22 観察できず。

2004年度(6年目)

2004.10～12 6回行くが観察できず。
2004.12.2 K氏今年度初観察。
2005.2～3 2回行くが観察できず。

2005年度(7年目)

2005.10～12 2回行くが観察できず。
2005.12.25 今年度初観察、初撮影。
2006.1～2 4回行くが観察できず。
2006.3.19 観察できて、撮影もできた。

2006年度(8年目)

2006.12.2 初観察、撮影できた。
2006.12～2007.1 3回行くが観察できず。
2007.2.16 観察できて、撮影もできた。

2007年度(9年目)

2007.11.19～26 2回行くが観察できず。
2007.11.30 初観察、撮影できた。
2007.12.1～3 3日連続観察できた。
2007.12.8 観察できず。
2007.12.10 観察できた。
2007.12.15 観察できて、撮影もできた。
2007.12～2008.2 5回観察に行くが発見できず。

2008年度(10年目)

2008.11.22 発見できず。
2008.11.24 初観察、撮影できた。
2008.11.29 観察できた。
2008.12.7 観察できた。
2008.12.20 観察できた。
2009.2.11 観察できて、撮影もできた。
2009.2.21 観察できて、撮影もできた。
2008.11～2009.3 この間、出かけても観察できなかつたのは16回。

2009年度(11年目)

2009.10～12 この間出かけても観察できなかつたのは19回。
2010.1.14 初観察、撮影はできず。
2010.1.30 観察できて、撮影もできた。
2010.2.9 観察できて、撮影もできた。

2010. 2. 23 観察できて、撮影もできた。
2010. 1～2 この間出かけても観察できなかったのは7回。

2010年度(12年目)

2010. 11～2011. 3 この間12回出かけたが、観察できず。
ただし、2011. 1. 5 飛ぶのを瞬間的に見た。
しかし、確実にアオシギかどうかは不明。

2011年度(13年目)

2011. 11～2012. 2 この間7回出かけたが、観察できず。

6. 観察結果

発見時の2000. 1. 10から、最終確認の2010. 2. 13まで11年間連続越冬した。
ただし、2000年以前から来ていたかどうかは不明の為、11年以上の可能性もある。

11年間連続観察したが、それが同一個体であったかどうかは不明である。従って、同一個体であろうと推測するが、「同一個体の連続越冬記録」かどうかは不確実である。
毎年撮影した写真から、なんとか体型の特徴、羽根の模様等で同一個体かどうか判断しようとしたが、明確にはわからなかった。

ちなみに、2羽同時に観察したことはなく、常に単独であった。

見つからなかった時は、見にくいところに隠れていたのか、他の場所へ移動していたのかは不明である。

この観察期間中に、一度だけ町田市の湿地でもアオシギを観察して撮影もした。

この時、同一日に当地で観察していないので、別個体なのか当地のが移動したのかは不明である。

各年度に撮影されて写真のうち、比較的良く撮れたものを写真1～8に示す。

写真9と10は湿地側と池側にいるところを、少し環境を入れて撮影したものである。

7. 最後に

この地域の湿地では、昔からアオシギが越冬していたのかは不明だが、今後も再度越冬地に選ぶ可能性もある。また、当地には似たような環境は他にもまだまだあるので、他湿地においても知られずに越冬していることも考えられる。

東京都でのアオシギの越冬観察は、WEB上で検索しても出て来ないので貴重であると思える。

しかし、神奈川県のパークの例もあり、どこにいつ現れるかわからないので、今後も引き続き調査してみたいと思う。

観察地については、大変見にくい微妙な場所であり、また各地での珍鳥観察時の住民とのトラブルも考え、発見者のK氏とも相談して数名のみでの観察とし、公表を控えたことをご理解願います。

本記録を作成するにあたり、発見者のK氏に、データ提供、越冬場所の概要の原案等ご協力いただいたことに感謝いたします。

写真1 2003年3月2日 初めての撮影 (大変見つけにくい)



写真2 2003年3月16日



写真3 2004年2月15日

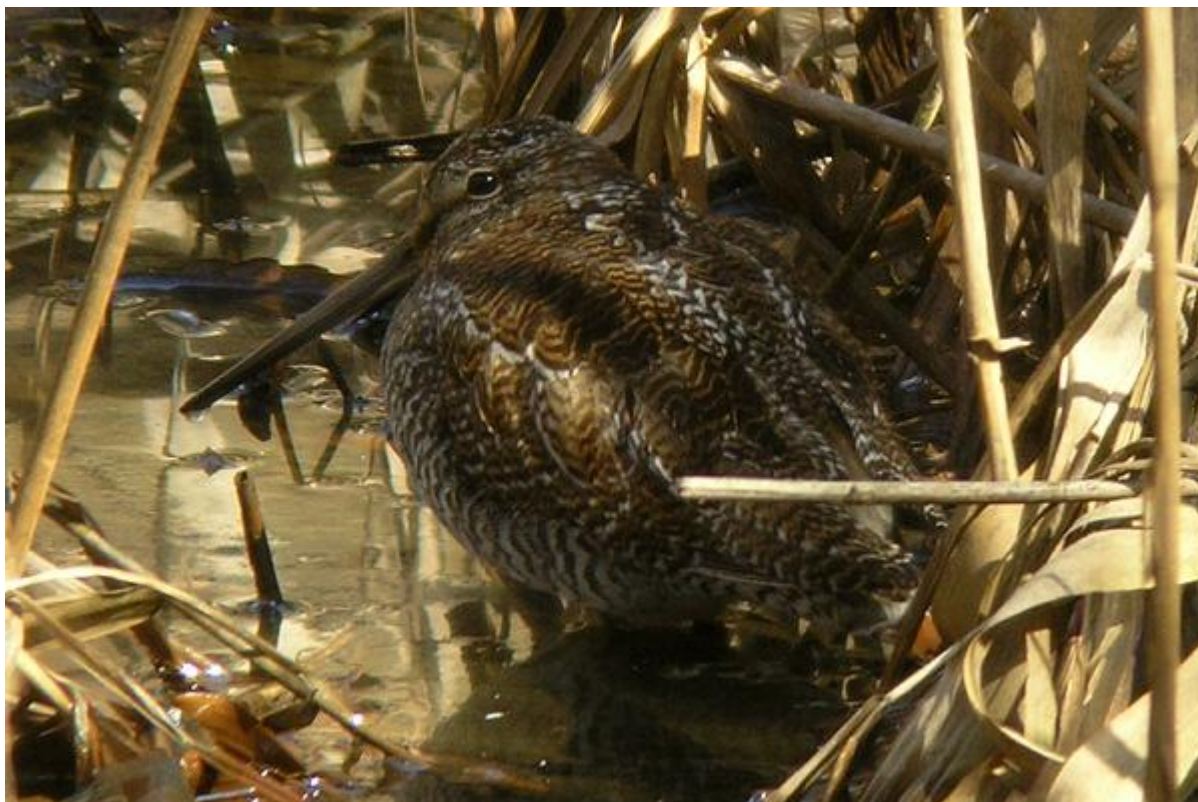


写真4 2005年12月25日



写真5 2006年12月2日



写真6 2007年11月30日



写真7 2009年2月21日



写真8 2010年2月9日



写真9 2009年2月21日 (湿地帯の中にあると枯れた葦の中で大変見つけにくい)



写真10 2010年2月9日 (池側にいると全身が見えるが保護色でやはり見つけにくい)

